

いま

No. 9

清掃事業は...

葛飾区

葛飾区清掃事業は、清掃事務所(車庫)、奥戸分室(コンテナ中継所)、新宿分室(旧東清掃事務所)の三ヶ所で執行されています。しかし、各分室とも極めて老朽化が進んでおり、再度大地震が来れば倒壊しそうな建物と化しています。私が所属する奥戸分室は地域性から地盤沈下も激しくなっていて、至るところに損傷が出ています。よって、そこで日々働く我々

職員や訪れる区民の安全を守るならば、支部予算要求でも毎年掲げているように、安全で効率的に一カ所で事業が執行できる「清掃事業総合庁舎」の建設が急務であると言えます。莫大な費用もかかる大きな課題であるため、建設実現に向けてあらゆる方面から話しを進めていきたいと思っています。

次に組織現状についてです。平成25年4月現在、統括技能長2名、技能長17名、技能主任42名、一級職90名、再任用12名、再雇用3名の合計167名で組織されています。葛飾区清掃事務所の職員は23区随一の現場指導力を誇ると言われていますし、我々職員も自負しています。しかしその一方、技能主任数は23区でも最低

水準レベルの数値に留め置かれています。技能主任を増やすに所得増にも繋がるため、組合員の処遇に係わる事項であることから、当局を納得させ配置率を高めていく取り組みも強化していかなければならないと思っています。

次に作業計画についてです。統合当初は、可燃・不燃での合せ作業で6・5回の能率で作業を行っていました。当時は超勤などの問題が多々ありましたが、その後、分別変更などもあり徐々に交渉等によって改正がされ、現在は能率5・2回という数値まで引き下げることができています。今以上の労働条件の低下を招かないためにも、常日頃の作業から積載などを注意し、点検し、取り組みを続けなければならないと思っています。

最後にありますが、いずれにしても、非常に厳しい情勢であります。すべての交渉を強化するとともに、支部みんなが安全・安心に職務をまっとうすることのできる職場環境構築のため、全組合員をあげて全力で闘っていききたいと思っています。

(葛飾区担当中央執行委員 渡辺 歩)



▲老朽化が進む庁舎。地盤沈下も激しく、区民の安全のためにも「清掃事業総合庁舎」の建設が急務だ

成25度より計画内に入れ全車庫付雇上化したい」と提案がされました。その後、厳しい当局との交渉を積み重ね、全車庫付雇上化の提案は撤回させたものの、7台のうち2台が直営、3台が運転手のみの借上げ、2台が車庫付雇上となっていました。

一方、新規採用については22年度に引き続き、25年度も4名の新入組合員を加えることができましたが、課題としてあるのは、統合以降、滞っている青年部組織の再構築です。私たちは将来自らが支部役員(交渉等)に携わらなければならぬ後輩を指導・育成する義務があります。よって、早急に「親」として青年部組織再構築の手助けをしていきたいと思っています。

5月16日から5日間、東京労協・東京労組の仲間40名で「ピースアクション5・15沖縄平和行進」に参加してきました。ツアー初日は、高江ヘリパット新基地建設反対支援活動に参加してきました。東村高江は、豊かな森と水に囲まれた小さな集落であるにも関わらず、2007年7月にオスプレイパッド建設工事が開始されてしまった場所です。住民たちは静かな暮らしと自然と平和を守るため、座り込み抗議を続けていますが、政府は住民に十分な説明もないまま強引に工事を進め、2013年2月に一つめのオスプレイパッドが完成してしまいました。このように、すでに高江でもオスプレイが飛

行進中、普天間基地の包囲も行った

▲辺野古V字滑走路阻止「命を守る会」

沖縄の尊厳と人権を返せ

戦争へと進む憲法改悪は断固阻止

5・15 沖縄平和行進



▲行進中、普天間基地の包囲も行った



▲辺野古V字滑走路阻止「命を守る会」

が集結した、5・15平和とくらしを守る県民大会に参加しました。豪雨の中、山城博治沖縄平和運動センター事務局長の司会、シュプレヒコールで開会、崎山嗣幸実行委員長が「オスプレイ再配備、辺野古新基地、沖縄の基地の重圧、再編が進んでいる」「憲法改悪をむくろみ、沖縄をまた戦争に引きずり込むとする安倍内閣を、また侮辱発言を繰り返す橋下を、この県民大会の名において糾弾する」と主催者あいさつ、「沖縄を含む全国のアメリ力軍基地の強化への反対と日米地位協定の抜本的改正を強く要求する」などとした大会宣言が採択確認されました。

沖縄の現状を見聞、平和行進に参加し、いかなる理由をもってしても戦争は正当化できない、基地のない平和な沖縄を一日も早く実現しなければならぬと強く思いました。「沖縄の平和」なくして「日本の平和なし」、日米安保条約を破棄することが必要だとあらためて痛感しました。

(文京区担当中央執行員 有田孝保)

今年度4名の新規採用を勝ち取る

6月末の支部定期大会に先立ち、役員選挙の告示がされた。毎回のことだが手のあがりが悪く、再々告示にまで至りながら、最終的には何とか定数を満たすことができた。しかし、本音は「できれば、やりたくない」だと思う。皆それぞれ家庭があり、また趣味や付き合いなどもある中での組合活動は大変だと思う。さらに、毎年賃金は下げられ、退職金は減り、人員も減らされて「やっつけられねえよ」となり、支部会議にもだんだん足が遠のいてしまう。参加者が減ってゆき、ついには会議自体が中止という悪循環に陥ってしまう。

ではどこで食い止めるか。正直、賃金引上げは困難だ。やはり小さなことからこつこつと。これまでの活動、取り組みを、もう一度よく見直して。図らずも「組織強化」がテーマだった組織集會に参加し、いろいろな支部の取り組みを学ぶことができた。来年は告示初日に定数があることを目標に、一歩ずつでも前進していきたいと思う。

(共闘部K・I)